

事例紹介大学等のプログラム概要【各地域での実施】

〔北陸・東海地区〕

1. 富山大学（平成20年度選定）

プログラムの名称	富大流人生設計支援プログラム －『14歳の挑戦』と連携する長期循環型インターンシップモデル
<p>（プログラムの概要）</p> <p>富山県では全国に先駆けて県内全中学校が「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を実施しており、本学のインターンシップにも経験学生が参加するようになってきたが、相互に連携・接続していないために生徒・学生の経験値は個人レベルにとどまっていた。</p> <p>本プログラムではインターンシップ参加学生が実習後もICTを利用した自学研修を重ね、『14歳の挑戦』の生徒指導ボランティアとして参加する。大学生は自らの成長を省みる機会を獲得し達成効果を高め、中学生は数年先のキャリアターゲットとなる大学生と触れ合うことで将来像を獲得し、発達段階に応じたキャリア教育の学びの循環として機能する。本プログラムにより、パーソナル支援、修学・学生支援、キャリア開発支援の総合的支援体制が推進できるとともに、他の高等教育機関と地域社会に対しても新しいタイプの長期型インターンシップを提示することになり、地域社会全体の活性化に大きく寄与できる。</p>	

2. 名古屋大学（平成19年度選定）

プログラムの名称	潜在的支援力を結集した支援メッシュの構築 －総合大学における学生の多様な「停滞」への対応のために
<p>（プログラムの概要）</p> <p>本取組では、総合大学の豊富な知的・文化的・人的資源を学生支援の潜在的支援力と捉え、それらを結集して大学生活の入口・出口・停滞をおおきめ細やかな支援の網を構築する。この体制を支援メッシュと定義する。</p> <p>具体的には、学生が学生を支えるしくみや悩みを持つ学生同士が交流する場など、多様なグループ活動を学生と協働で運営し、これらを網の目（メッシュ）のようにつなぐ。グループ活動では、従来のサークル活動とは異なり、専門家がオーガナイザーとして関わり、文化的活動を媒介として、学生同士のコミュニケーションの活性化をはかる。学生主体で運営されるが、教職員もこれを支え、学部横断的に展開する。この取り組みは、学生支援の専門家だけに委ねられるのではない、大学全体の支援力を高めることを目指すプログラムである。</p>	

3. 石川工業高等専門学校（平成19年度選定）

プログラムの名称	学外連携活動による人間力向上教育システム －能登半島地震被災地復興支援を通して
<p>（プログラムの概要）</p> <p>学生の人間力*の向上を目指す教育システムを、能登地震被災地復興支援活動を通して構築する。本提案において目指す新たな教育システムは以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップやボランティア活動等を含む学外実地教育を社会参加型科目群として別枠で設定し、必修化する。 2. 社会参加型科目群を各学科、各専攻の通常科目群の実践演習単元として位置づける。また、必要に応じて卒業研究など、相当科目に読み替える。 3. フォーラムや報告会を開催し、学生、教員ならびに現場のステークホルダーに成果を還元すると共に、合同評価委員会を設置し、活動を評価する。 4. 第三者を含む新教育システム評価委員会により、教育システムの検討を勧告、改善を図る。 <p>*人間力向上に求められる能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係を理解し構築・維持できる能力 2. 問題の状況、また背景や原因を理解・把握できる能力 3. それらを踏まえた上で課題解決策を考え、実行できる能力 	